

News Letter

2019.1 | 男女共同参画推進リサーチライフサポート室

Research Life Support Division for Promotion of Gender Equality

05

特集

「女性研究者支援とダイバーシティ研究環境実現に向けて」を開催 2018年9月20日 文部科学省 科学技術人材育成費補助事業 ～ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(特色型)中間総括シンポジウム～

2018年9月20日、表記シンポジウムをBKCローム記念館にて開催しました。相田美砂子氏(広島大学理事・副学長)「広島大学のダイバーシティ推進」、マチ・ディルワース氏(沖縄科学技術大学院大学・副学長)「アンコンシャスバイアス(無意識の偏見)と女性研究者活躍促進」の2つの基調講演の後、田中弘美副学長・リサーチライフサポート室

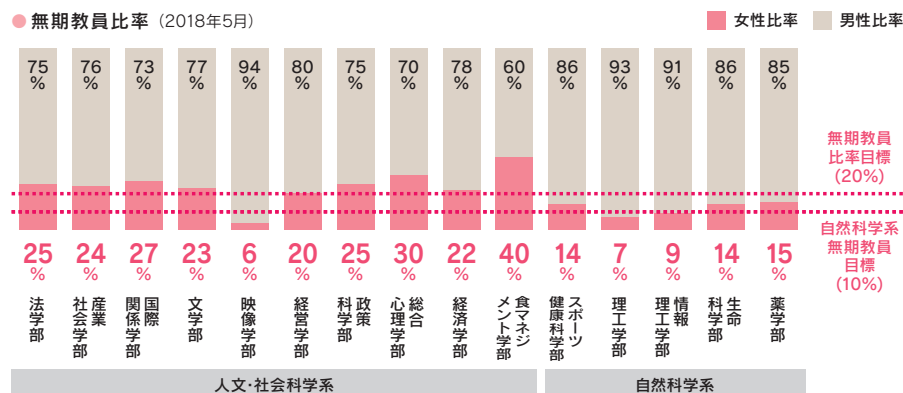
室長が事業成果を発表いたしました。

特筆すべきは、2018年2月、6月、男女共同参画推進委員会が各学部の意見集約を行い、特徴的な取組をした8学部から学部長・前副学部長が登壇し、この間の取組を報告されたことです。今回のニュースレターでは、その一部をご紹介します。

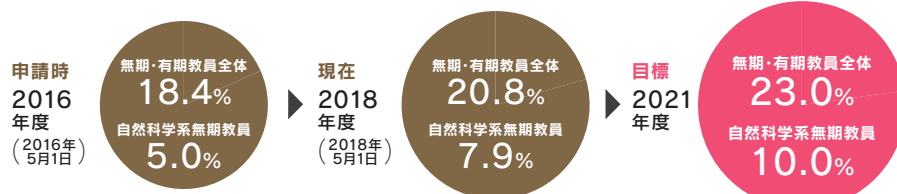


女性教員在職比率の向上

行動計画における2021年度の目標値は、無期教員の女性教員比率20%、自然科学系10%であり、すでに達成の学部もあります。自然科学系学部では、比率向上のために女性限定公募を採用いたしました。薬学部では、2017年度退職者補充人事で2名、生命科学部では、1年前倒し人事1名、2年前倒し人事1名、退職者補充人事1名、情報理工学部では、通常補充人事1名を任用できました。



自然科学系無期女性教員比率は、申請時の5.0%より2.9ポイント増加しました。



研究環境整備

学校法人立命館は、昨年度の内閣府「企業主導型保育事業」に申請し、衣笠キャンパスとびわこくさつキャンパスに学内保育所を開設いたしました。



立命館みらい保育園きぬがさ



立命館みらい保育園びわこ

研究力向上・研究費獲得のための取組

研究支援員制度の創設

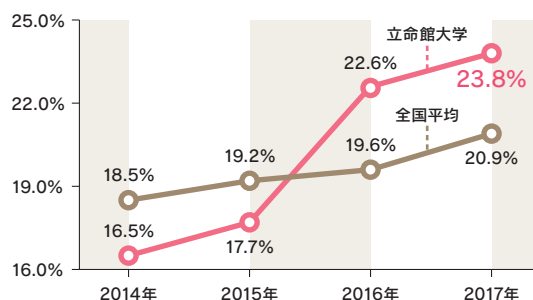
- 助成金額: 1期(6ヶ月)につき30万円まで
- 助成期間: ①妊娠・育児: 通算3年(6期) ②介護: 通算2年(4期)

	期間	利用者	申請区分/性別
第1期	2017年6月1日～ 11月30日	人文・社会科学系7件 自然科学系2件 合計9件	育児9件 女性9名
第2期	2017年10月1日～ 2018年3月31日	人文・社会科学系9件 自然科学系4件 合計13件	妊娠・育児1件/育児12件 女性13名/男性0名
第3期	2018年4月1日～ 9月30日	人文・社会科学系11件 自然科学系5件 合計16件	育児14件/介護2件 女性14名/男性2名
第4期	2018年10月1日～ 2019年3月31日	人文・社会科学系12件 自然科学系10件 合計22件	育児19件/妊娠・育児1件/介護2件 女性18名/男性4名

本年度で2年目の運用となり、半期ごとに申請・採択件数が向上しています。

科学研究費助成事業採択の女性研究者比率増加

- 申請件数(134件)および、申請比率(19.6%)とも過去最高。
- 採択件数(45件)および、採択比率(23.8%)とも過去最高。
- 科研費保有率(42.6%)は男性研究者の保有率(38.0%)を4.6ポイント上回る。



各学部からの報告

各学部の取組報告と今後の課題については、以下の通り取りまとめた。前頁のような人事施策が可能になった背景を、学部長・前副学部長は次のように語る。

リサーチライフサポート室室長代理 二宮 周平(法学部教授)

服部薬学部長

教授会で女性限定公募を説明したときには、逆差別ではないのかと反対意見があったため、薬学部との留学プログラム協定を結んでいるトロント大学を用いて説明した。トロント大学は、薬学部では専任教員(教授・准教授)約100名中、50名が女性であり、学部長も女性が務めている。女子学生も多く、女性教員をロールモデルとしてキャリアを形成している。本大学薬学部も、学生比率では女子学生の方が多く実態であり、女性が活躍できる学部であるため、女性教員比率を上げる協力を要請した。また、この女性限定公募が成立しなかった場合、薬学部になにか不都合が起こるのかという質問もあった。不都合が起こることはないが、立命館の評判を下げることになりかねないと説明をした。

小島生命科学部長

実施前は、公平性に欠ける、慎重に進めるべきという意見が多く、また、

前倒し人事に関しては、先々の人事予定まで決めなくてはならないため、調整に時間を要した。教授会、学科長会議で、男女共同参画推進および女性教員の積極的採用が全学方針であり、学部長・学部執行部も賛成していることから何度も議案にし、丁寧な議論を行い、学部として理解を得た。吉田総長、田中室長が教授会に、田中室長、野口研究部事務部長が学科長会議に出向き説明されたことも合意形成に役立った。

採用人事の最終候補者に女性を登載する学部もある。

君島国際関係学部長

バックグラウンドとして、国際関係ないし国際系の学部は国内外を問わず女子学生が多いという状況がある。2010年当時、本学部は女子学生が65%にもかかわらず、女性教員は14%だった。当時の板木学部長が鋭い問題意識を持ち、国際関係学部内に、男女共同参画検討委員会を立ち上げた。その結果、委員会より「今後の学部教員人事においては、女性研究者が直面している種々の困難な条件を十分に考慮しつつ、男女共同参画社会基本法の趣旨の通り、女性の積極的な採用を行う」という提言が出され、応募者から面接対象者を3人に絞るにあたり、必ず女性を入れるように努め、女性がいけない場合は、教授会でその説明をするという内規を設けた。

同種の取組をする法学部からは、女性教員が教員比率の重要性和育児との両立を語る。

渡辺法学部教授(前副学部長)

21年前に着任した当時は、法学部の専門の女性教員は3名だった。少ないように感じるが、出身校では女性教員はいなかったため非常に心強かった。しかし、女性が少ない状況というものは、居心地が良いものではない。クリティカルマスという言葉があり、通常30%と言われている。法学部の現状は25%。今は、自分が女性であるということをあまり意識しない。法学部は、人権意識が高く女性差別はなく、むしろ女性を積極的に採用する動きがあり、女性教員も増え、昇進も順調である。自分自身は、二人の子どもの育児休業取得時期や、保育園の送迎(10年間)などの制限があり、仕事(研究)が十分に出来ない時期が長く続いた。昨年初めて学部執行部に入ったが、会



女性研究者の裾野拡大

研究者の横のつながりや研究発表の場を増やしています。

立命研究者の会

- びわこ・くさつキャンパスにて開催
(2017年6月23日)
- 大阪いばらきキャンパスにて開催
(2017年9月15日)
- 衣笠キャンパスにて開催
(2017年12月22日)



ライスボールセミナー

本大学所属研究者の研究発表およびフリーディスカッションを行うランチョンセミナー(通称ライスボールセミナー)に2017年度より「女性研究者発表月間」を新設し、「ダイバーシティが生むイノベーション～女性研究者による発表～」を共通テーマとして学生・院生を対象に研究職への意識醸成を図っています。

- 2017年度実績 12人
(びわこ・くさつキャンパス4人、衣笠キャンパス5人、大阪いばらきキャンパス3人)

議開始時間を早めるなど改善され、助かった。女性の人数が増えると、自然と対処できることも増えるだろう。また執行部に入ると、研究時間がなかなか持てないので、大学の意思決定機関の中に女性が入ることは良いと思うが、ワークライフバランスを共に進めることが大切だと思う。

ワークライフバランスと意識啓発

渡辺教授のコメントにあるように、育児を担うことの多い女性教員にとっては、男性以上にワークライフバランスの実現が必要である。各学部からの意見集約でも指摘されており、本年4月の総長報告「男女共同参画にかかわる今年度の課題推進の方向について」(2018年4月25日)につながった。

意見集約によると、人文・社会科学系学部では会議の時間制限や下限の設定が行われており、自然科学系学部も開始時間の改善に言及している。また、会議の効率化と課題の洗い出しにも取り組んでいる。

ところで女性教員の大学行政への参画は進んでいる。理事会で報告される全学役職者(教学部・国際部・学生部の副部長等)195名のうち20名(10.2%)、学部・研究科執行部(副学部長・副研究科長・学生主事等)118名のうち12名(10.1%)である。

学部長および学部全体の意識が女性の参画を支える。経営学部は、女性講師を招いて研究会と懇親会を兼ねた意見交換や教授会にてダイバーシティ学習会の講演DVDを視聴している。

佐藤経営学部長

男女や個人でそれぞれ同じものを見ていても見方や感じ方が異なる。男性社会のシステムの中で見ていることが当たり前にならないように、平場の教員も含め、勉強会の継続的实施を行うようにしていきたい。

産業社会学部では、着任3年目で育児中の女性教員が学部執行部入りをした。

竹内産業社会学部長

当該教員は面接時に妊娠中だったが、能力や経験を鑑み任用した。着任してからは、研究部の配慮により授乳やオムツ替えの部屋を用意し、研究

今後の取組

引き続き、事業最終年度目標達成に向け
着実に実施する体制を構築する。

上位職女性教員・役職者
(全学および学部・役員等)の増加と、
女性研究者リーダー
(科研費等の代表、学会の理事等)の
養成に取り組む。

男女共同参画推進と共に、
働き方改革、LGBT等を含む
「ダイバーシティ&インクルージョン」を
推進する研究環境と体制を構築する。

支援員制度も活用しながら教育・研究を進めている。学生指導にも熱心なので学部執行部入りを要請したところ快諾された。その理由として、ロールモデルとなる女性教員(大学院研究担当の副学部長)がいたこと、出来ないことやしんどいことなど現状を気軽に言える環境だったこと、学部職員との良好なコミュニケーションが出来ていたこと、本学部の女子学生比率は50%を超えており、女子学生のロールモデルになるべく、子育てで忙しくても仕事は続けられる、また執行部の仕事も出来るということを伝えたかったことを挙げられた。本学部では、男性の教員でも保育園のお迎えで教授会を早退される教員もあり、周囲の理解も高だけでなく、学生案件などを会議の前半に回すなどの配慮を行っている。当該教員は、ニーズを受け止めてくれている、ライフイベント中でも排除されていないと感じることも話されている。男性では気がつかず当たり前だと思っていることが女性に不利になっている場合もあるが、女性教員が増えることで変わってくるのではないかと考える。

女性教員比率が低い学部では、産業社会学部のような取組は困難かもしれない。

山下情報理工学部長

教員が教育・研究を中心に担えるよう、行政職からなるべく開放し、負担を減らす必要がある。子育て中の教員には、学部役職、全学役職を含め、お願いするのは気が引ける現状がある。

深川理工学部長

学部行政に女性教員が入ることができるよう、学部全体としての意識を変え、学生のロールモデルとなるような教員を育てていけるよう学部として支援をしていきたいと考えている。

おわりに私見を。各学部長の報告から、本大学の今後の課題として、女性教員比率のさらなる向上(自然科学系学部における母体層の拡大を含む)、すべての教職員にとってのワークライフバランスの実現、長期的視点に立った研究・大学行政の領域でリーダーとなる女性教員の養成が挙げられるように思われた。

活動報告

日経ウーマノミクスフォーラム 「ダイバーシティ研究環境整備と女性研究者の未来」に 本大学ブースを出展しました

2018年8月31日大阪市北区のグランキューブ大阪(大阪府立国際会議場)3F イベントホールにて、日経ウーマノミクス・プロジェクトが主催するフォーラムが開催されました。

パネルディスカッションでは本大学情報理工学部の西原陽子准教授もパネリストとして参加しました。また、ミニセミナーと情報交換会では、福本ゼミの大学院生 森晴菜さんがお話くださいました。本大学のブース展示では、来場した高校生に、女性活躍推進の取組を紹介すると共に、西原准教授の研究室の大学院生が開発したアプリに実際に触れてもらう機会を設けました。



日経ウーマノミクスプロジェクト 「女性研究者キャリアカフェ」を開催しました

日本経済新聞社様のご協力のもと、11月19日龍谷大学と本大学共催によりびわこ・くさつキャンパスで開催いたしました。

この取り組みは、女性研究者のネットワークづくりを目的としています。本大学 秋吉恵准教授が講師の1人として登壇し、研究とワークライフバランスについてお話いただきました。



新任教員対象「研究コミュニティと 支援体制の紹介」セミナーを開催しました

2016年から2018年に着任された新任教員対象に各キャンパスにて研究支援についてご紹介するセミナーを行いました。3キャンパスで合わせて45名の参加があり、研究支援の様々な制度を知っていただくことで、さらに研究を深めていただくための機会となりました。また、研究部の取組を紹介するため、ライスボールセミナーで学生・院生に配布をしているおにぎりを召し上がって頂きながら、ご紹介いたしました。

当日の資料をご希望の方は、rsupport@st.ritsumei.ac.jp まで、ご連絡下さい。



ロールモデル集「研究日和Vol.3」を刊行しました

Vol.1とVol.2では理系女性研究者をご紹介して参りましたが、今回は男性の研究者からのメッセージもお伝えします。

- Case #01 松原洋子
先端総合学術研究科 教授
- Case #02 海老久美子
スポーツ健康科学部 教授
- Case #03 鈴木桂子
衣笠総合研究機構 教授
- Case #04 中村正 産業社会学部 教授
- Case #05 塩澤成弘 スポーツ健康科学部 教授

リサーチライフサポート室のHPでも研究日和Vol.1~3のデータ公開中です。また各キャンパスリサーチオフィスでもご入手頂けます。



Facebook & Twitterページを立ち上げました

当室の取組をご理解いただくため、イベントや取組の案内、日頃の様子をご紹介します。ぜひフォローをお願いいたします。



Facebook
@Ritsumeikan.
Research.Life.Support



Twitter
@rsupport_R

学内教職員の皆様へ
アンケートの
ご協力をお願い

立命館大学における男女共同参画に関するアンケートにご協力下さい。

[実施時期: 2019年1月15日~1月25日] これまでの取組について知っていただき、また効果について皆様の意識を伺いたく、アンケートを実施いたします。本アンケートの意義をご理解頂き、ご協力の程お願いいたします。 <http://www.ritsumei.ac.jp/research/rsupport/news/article.html/?id=149>



立命館大学 男女共同参画推進リサーチライフサポート室

お問い合わせ先
[全キャンパス共通]

びわこ・くさつキャンパス

〒525-8577 滋賀県草津市野路東1-1-1

TEL: 077-561-2631 (内線: 515-6500)

E-mail: rsupport@st.ritsumei.ac.jp [平日] 9:00-17:30 開室

www.ritsumei.ac.jp/research/rsupport/

